

《今週のスケジュール》

24 (月)		
25 (火)		14:00~ 医療支援
26 (水)	20:00~ 祈禱会	14:00~ T&Mコーディネーター会議
27 (木)	13:30~ 日高村集会	8:30~ 医療支援、1500~ T&M信徒セミナー会議
28 (金)		15:00~ ウェスレアン・ホーリネス教団コーチング
29 (土)		
30 (日)	10:00~ 教会学校 10:40~ PraiseTime 11:00~ 主日礼拝 (会堂Zoom)	14:00~ 教区総会

《献金・教勢の報告》

教会学校	4	1	5	1,200円
主日礼拝	8	9	17	14,000円
日高村集会	3	2	5	
伊野祈禱会	2	3	5	
祈禱会計	5	5	10	13,700円
《月定献金》辰廣兄、豊美姉、織田姉 美恵姉				
《特別献金》				
《会堂献金》辰廣兄、豊美姉、織田姉 美恵姉				

《祈禱課題》

- 子どもたちの成長 (義孝ちゃん、悠生くん、聖龍くん、謙吾くん、新大くん、真愛也君)
- 青年の方々のため (勇司兄、望輝、隆兄、森下兄、川原君)
- 病の癒しと問題の解決 (藤崎勇司兄、美穂、勇一、史子姉)
 - Bob Warren 師夫妻の手術後の回復のため
 - 津野二四夫兄のため (リウマチの病の癒やし)
 - 渡辺説子先生のため
 - 難病の他系統萎縮症を患われた史子姉のために
 - 心不全のため治療を受けていた梅原信治兄の回復のために
- 求道者の方々の救いのため
- 教会から離れている方々のために
- 中内直昭兄のため (子供の回復のため、息子さん龍くんの癒しの為)
- 教会増殖のために (T&Mのため)
 - OMS、ECCの喜納秀樹先生のため アジアアクセスジャパンのために (播磨也師)
- 教会の高齢者の皆さんのために
 - (森岡順一兄、森岡史子姉、藤川豊美姉、若林英明兄、若林文姉、佐伯茂登子姉)
- 日本ホーリネス教団の新委員長になられた佐藤義則師のため
- 新型コロナウイルスの感染の収束のために
- 本山町土佐町で開拓されている福命宣教師ご夫妻のため
 - (池命根-ジ・ミョンクン師、朴福順-パク・ホクソン師、金姉)
- 関係支援団体の働きのために
 - OMS (Men for Mission, T&M)、アジアアクセス、Love Japan、
 - 四国キリスト災害支援会、No place left Japan、高知Prayer Group、G&M財団、CGNTV
 - West East宣教師団、シンガポールインマヌエル福音自由教会
- 高知Prayer Groupのため 5/12 (金) 9:00~
 - ・ Prayer Walkで出会った方々の救いのため (池川、須崎、窪川、本山)
 - ・ Jonathan Benedict 宣教師、Stephen Town 氏のため
 - ・ 次回のミッション 5/29 (月) ~6/2 (金)
- OMの近藤健二、サンティ-宣教師夫妻のため
- OMSのボブ&スザンヌ・ウォーレン師夫妻、ティビッド&マーティ・ミック師夫妻のため
- ステイプラー・クーパー師、バメラ師、バーバラ師 (パーキンソンの癒し) のために
- アスリートチャーチの高知県下での働きのために (~4/11)
- ウクライナ紛争の平和的終結のために

《聖務表》

	教会学校			主日礼拝					計	
	司会	お話し	献金	リード	奏楽	ドラム	祈禱	母子室		
4/23	賛江姉	恵姉		安岡兄	西茂兄		安岡兄	直子姉	森下兄	西茂兄
4/30	賛江姉	賛江姉		安岡兄	安岡兄		賛江姉	賛江姉	若林師	安岡兄
5/7	賛江姉	佐伯師		賛江姉	西茂兄		西茂兄	直子姉	勇司兄	辰廣兄

《2023年標語》

- 「みことばを聞き、学ぼう」
- ① デイポーション
 - ② 早天、礼拝、祈禱会への参加
 - ③ 教会学校の充実
 - ④ T & Mの訓練
 - ⑤ みことばを伝える伝道

《2023年のみことば》

「先立たれ、共におられる主」

「主ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたとともにおられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」 (申命記3:8)

《2023年目標》

- ① 祈りの充実 (祈禱会、黙想)
- ② 伝道の開始 (地の伝道、子ども伝道)
- ③ 訓練と増殖 (T&M、次世代育成)
- ④ スモールグループ (祈りの効果)
- ⑤ 宣教協力 (海外PG、AAI、NPU)



Kochi Grace Church

〒781-2120

高知県吾川郡いの町枝川2465-10 (牧師館) 枝川2025-2

TEL 088-893-0222 gracech@jhcs.org (緊急連絡用) 090-2897-1090



(Home Page) <https://kgracech.org/> (E-mail) info@kgracech.org

《4月のみことば》

「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」 (ルカ23:46)

《Praise Time》10:40~

司会：安岡兄 奏楽：西茂兄

どんな時でも、R179力ある主の御名、主の足もとに、R84子羊イエスよ

《主日礼拝》 11:00~

招詞	ヘブル4:15~16	司会者
頌栄	新聖歌 60番	一同/起立
使徒信条		一同
主の祈り		一同
賛美	新聖歌 4番	一同/着席
祈禱		司会者
賛美	新聖歌 385番	一同
聖書朗読	ヨシュア記20:1~9	聴くドラマ聖書
説教	「逃れの町」	牧師
賛美	新聖歌 455番	一同
感謝祈禱		安岡兄
頌栄	新聖歌 63番	起立/一同
祝禱		牧師

《今週のみことば》

あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません。神は真実な方です。あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。

(1コリ10:13)

<p>《Will do》</p> <p>主に従う弟子として</p> <p>①深みに漕ぎ出す…信仰の挑戦</p> <p>②網を下ろす …信仰の実践</p> <p>③すべてを捨てる …信仰の従順</p>	<p>《みことば》</p> <p>「深みに漕ぎ出し、網を下ろして魚を捕りなさい」(ルカ5：4)</p>	<p>《目標》</p> <p>宣教の拡大</p> <p>① 未伝地伝道の拡大</p> <p>② 家の教会の拡大</p> <p>③ 国内外への宣教の拡大</p>
---	---	---

報

告

◇20日～21日は、NoPlaceleftのTEX渡邊師とWest East宣教団の副代表で日本担当代表のトラビス・パート師が、来訪されました。四国への宣教派遣の事前調査とPrayer Walkのチームの派遣準備の為の来訪でした。◇シンガポールのイマヌエル福音自由教会と宣教師または伝道チームの派遣の交渉が始まりました。現在6名の宣教師候補が訓練を受けて準備中です。◇21日この町ほどの近くにお住まいのH・Sさんが来訪されました。

◇20日(木)は、黒岩平野で牧師の司式で近藤家の納骨墓前式式が行われました。直子姉の従姉妹の近藤伸子姉(日本基督教団高知教会員)と近藤吉夫さんの納骨となりました。◇来週30日(日)は、礼拝後に運営委員会が開かれます。◇来週30日(日)午後2時～は、四国教区総会が開かれます。教区対応の信徒代議員の安岡兄からは委任状が出ていますので、総会には牧師が対応させていただきます。

礼拝説教

逃れの町

◎聖書箇所…ヨシュア20：1～9

カナンの地を占領し、それぞれの部族に相続地が割り当てられた直後に、神さまはヨシュアに「逃れの町」(2)を定めるように命じました。「逃れの町」とは何でしょうか。神さまはなぜこの町を制定するようにモーセ(出エジプト21：13)とヨシュアを通してイスラエルに命じられたのでしょうか。

3節を見ると、この「逃れの町」とは、誤って人を殺した者が逃げ込むことのできる場所で、この町に逃げ込むならばその人は復讐する人の仇討ちから免れ、罰を受けずに済むという所です。彼は、その町の門の入口に立ち、その町の長老たちに聞こえるように事情を説明したら、長老たちは彼を受け入れ、彼に一つの場所を与え、彼は彼らとともに住むことができたのです。たとえ復讐する者が追ってきても、殺人者であるその人をその手に渡してはならなかったのです。

なぜ、それほどまでに、この町の制定にこだわられたのでしょうか。また、この「逃れの町」を通して、ご自身の愛をどのように表されたのでしょうか。

1. 理解する愛

第一に神さまは、私たち人間がいかに弱く、間違いや多く、失敗を犯しやすい存在であるかということをも十分に知られ、深く理解しておられるということです。

江戸時代の日本では、仇討ちが復讐の制度的慣行になっていましたが、日本では明治6年に「復讐禁止令」の公布以降は禁じられました。古代イスラエルでも、「人間を打ち殺す者は必ず殺されなければならない。」(レビ24：17)とあって、「血の復讐をする者」(民35：19)が仇を討ちをすることは正当であるばかりか、義務とされていた。

「半沢直樹」というドラマで「やられたらやり返す、倍返しだ」という台詞が話題になりました。実際の仕事でも、理不尽なことを言われたり、自分の意見に耳を傾けてくれないとき、思わず、このセリフが頭に浮かぶ人もいるのではないのでしょうか。ストレス社会にあってスカッとすると名詞にストレス解消の意味もあって一躍有名になった言葉かもしれません。しかし、やり返せば相手との関係が悪化し、我慢すればストレスで自分が押しつぶされてしまいます。ドラマのようにはなりません。

その点、バビロニアのハムラビ法典の中に記されている「目には目を、歯には歯を」(レビ24：20)という同害報復法の公平性の教えから来たものです。過剰な報復を禁じ、同等の懲罰にとどめて報復合戦の拡大を防ぐと

いう意味の言葉です。

しかし、ヨシュアの定めた規定は、復讐者から保護するために、「逃れの町」が用意された点、さらに一歩進んでいます。

3節には、「意図せずに誤って人を打ち殺してしまった殺人者が、そこに逃げ込むためである。血の復讐をする者から逃れる場所とせよ」と、書かれています。

だれも完全な者はおらず、人はみな何らかのあやまちや失敗を犯す者です。けれども、そのようにあやまって罪を犯してしまったらもう何の救いもないのかということではなく、そのような者に対するあわれみが用意されているのです。それが「逃れの町」です。

ヘブル4：15、16には、次のような御言があります。「**私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。**」

イエスさまは私たち人間のすべての弱さを思いやることがおできになるお方です。なぜなら、イエスさまご自身があらゆる試みに会われ、そこを通られたからです。イエスさまは私たちの弱さ、罪、醜さ、愚かさのすべてを知られ、理解しておられます。



ですから私たちは安心して、かつ大胆に恵みの御座に近づこうではないかとヘブル書の記者は勧めているのです。

そうです、イエスさまは私たちのすべてをご存知の上で、それで私たちを愛し、赦し、招いてくださるのです。愛とは、このように相手を理解することなのです。

2. 動機を重んじる愛

第二に、愛とは結果ではなく動機を重んじるということです。人を殺してしまったという結果以上に、なぜそうなったのかという動機が大切にされるのです。「逃れの町」は過失を犯してしまった人の町です。ここで問題として取り上げられているのは「動機」です。なぜ、そのようなことをしてしまっただけなのかという点です。

マタイ25章には、有名な羊と山羊のたとえが記されています。そこには神から祝福される人々と、神の祝福から外れる人々がどういう人であるかが描かれています。

神から祝福を受ける人々とは、主が飢えたときに食べさせ、渴いたときに飲ませ、獄にいたときに訪ねてくれ、病気の時に見舞ってくれた人々ですが、そのことを主が言われたときと本人たちは全然覚えていないのです。

主は、「最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」(マタイ25：40)とされました。

ここに愛の側面が語られていると思うのです。すなわち、愛とは自らの行為を自覚しないということです。「これだけのことをやった」と自慢しないのです。神さまはその人が何をしたかよりも、どのような動機でそれをしたかをご覧になるのです。

3. 回復する愛

第三にこの「逃れの町」を通して教えられる神の愛は、誤った人々を罰することよりも、もう一度立ち直らせることがその目的であるということです。

神さまは過失を犯した人間を罰することではなく、もう一度立ち直らせることを強く願っておられるということです。そしてそれは聖書全体が語っている主要なテーマなのです。

祈禱会のテキスト

誘惑を受けた人間

○創世記3：1～24(9)

①蛇(サタン)は、言葉巧みにエバを誘惑をしています。蛇とエバの会話を再現してみましょう。そこから何が分かりますか(1～5)

②エバは、どうして神さまから禁じられていた木の実を食べってしまったのでしょうか(6)。

③禁じられていた木の実を食べってしまった二人には、どのような変化が起こりましたか(7)

④彼らが「御顔を避けて」、「あなたはどこにいるのか」(9)との問い掛けに対して、身を隠したのはどうしてでしょうか(8、参考/ローマ3：23、ヨブ13：6)。

*あなたも神さまを御顔を避けるようなことはありませんか。

⑤神さまのアダムは、何を恐れて恐れて身を隠したのでしょうか。

⑥「食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか」(11)という神さまからの問いかけに、彼らはど

勿論、私たちの神さまは罪をないがしろにされる方ではありません。罪は罪としてさばかれなければなりません。同時に神さまはその罪を赦し、もう一度新しくやり直す道を提供しておられるのです。

6節にはこの「**逃れの町**」に逃げ込んだ者は、大祭司の死によってこの町から出て自由の身になると記されています。ヘブル人への手紙によると、この大祭司とはキリストを指してあり、大祭司の死とはキリストの死、すなわち十字架の死を指していると考えられるのです。この十字架の死を通して、主なる神は私たちが新しくやり直すことのできる道を開いてくださったのです。

イエスさまがこの世に来てくださったのは、十字架で私たちを縛る罪の力、悪魔の力をうち破り、私たちをその支配から解放するためだったのです。この十字架の贖いこそ私たちの罪が赦され、もう一度やり直すことのできる道筋なのです。

「**逃れの町**」という場所の問題ではありません。私たちの「**逃れの町**」の主は、イエスさまご自身であり、「**逃れの町**」は、イエス様の懐そのものであり、神の国、御国であると言えます。

私たちが新しく人生をやり直すことができる唯一の道は、十字架の前に立ち、その御前にへりくだって悔い改め、贖いの恵みを受けることしかないからです。

「**だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。**」(IIコリント5：17)。

そんな神さまの恵みにお頼りし、日々、新しく造り変えられていきたいと思います。

また、神はこの「**逃れの町**」である神の国、その主であるイエスさまを通して、ご自身の愛がどのようなものであるのかを知らされました。イエスさまは私たち罪人を理解して下さり、結果ではなく動機を見られるお方です。また、救いという回復を願っておられるお方です。私たちがまたそのような者にさせていただきたいと思えます。

罪ある人間を探す神さま

のように答えましたか。
 アダム エバ
 ⑦サタンの誘惑と人の墮落の結果は、どのようになりましたか。
 蛇(サタン) アダム エバ
 ⑧やがて二人はエデンの園を追い出されることになりました。しかし、この追放劇にも神さまの人に対する憐れみと愛が示されています。それはどのような点でしょうか(21)。

実習課題

・サタンの誘惑に惑わされることがないために、なすべき事は何でしょうか(エペソ6：11～18)。
 ・罪を犯してしまったときに、神さまから身を隠したり、言い訳をしたり、責任転嫁をしていますが。自らの罪を告白して悔い改めましょう(1ヨハネ1：6～10)。

4月25日(火) 岩なる神さまに信頼しよう 申32:28~43

●内容観察

モーセは、イスラエルがやがて主に背き、偶像を拜むようになり、その結果、敵国に滅ぼされることを預言しています。しかし主は、イスラエルを苦しめる敵国に復讐をなされることも語られています。

●静聴と観察

【御父】30～31節:「彼らの岩」とは、イスラエルの神である主のことです。主に信頼する者は決して敵に負けることなく、敵もそれを知っています。主と共にいる限り、私たちは勝利者です。私たちが主から離れない限り、主も私たちから離れることはないのです。

<適用の祈り>今の状況ばかりを見て、主に對する信頼が失われていることはありませんか。主への信頼をどのように回復させることができるでしょうか。今日、主の勝利を宣言するべきことがありますか。

〈警告〉28～29節:主を畏れない者は、最終的に滅びます。主を畏れることが、知識の初め(箴

1:7)であると、聖書には記されています。イスラエルは荒野をさまよう間、主の奇跡と助けを数多く体験しましたが、それでも主を畏れることを学ばず、約束の地に入ると、偶像礼拝を行い、やがてそれが原因で滅びてしまいます。

<適用の祈り>あなたの心は、主を畏れているでしょうか。主を畏れる者の行動は、どのようなものでしょうか。悔い改めるべきことはありますか。

〈励まし〉36~42節:罪のために懲らしめた民をあわれみ、回復させ、イスラエルの敵に報復してくださいとお方です。神さまは懲らしめることがあっても、見捨てることはありません。絶えようとす神の民をあわれみ(36節)、ご自身で民をいやし(39節)、イスラエルを苦しめた敵国に対して、報復されるのです(41~42節)。

<適用の祈り>靈的な戦いに敗北したり、大きな試みに遭って、神さまに見放されたという思いはありませんか。主は私たちを懲らしめても、必ずいやして、成熟させてくださることを覚えませんか。

4月26日(水) 使命を果たした人生 申32:44~52

●内容観察

モーセは繰り返し、民にみことばを守り行うよう命じます。神さまは山の上で、モーセに約束の地を見せられますが、彼自身は入ることを許されず、イスラエルの民がその地に入ることを語られます。

●静聴と観察

【御父】48~49節:将来の大いなるビジョンを見せてくださるお方です。神さまは山の上で、モーセに約束の地を見せてくださいました。ただの土地を見せたのではありません。輝くイスラエルの民の将来と、天の御国の偉大なるビジョンを見せたのです。

<適用の祈り>自分自身の将来や、次世代の将来のビジョンを見たいと思いませんか。まだ見えないビジョンがあるなら、どうすることによって神さまに見せていただけるでしょうか(参/マタ7:7)。

〈勧め〉44~47節:先輩や、靈的指導者の指導と教えに聞き従いましょう。そうすれば栄えるのです。偉大な神のしもべモーセの最期が近づいていました。彼は繰り返し、自分が語る神さまから

のみことばに聞き従うように言い、これがいのちであるとまで言いました。

<適用の祈り>あなたへの愛を持って、みことばを語ってくださる牧師先生や、信仰の先輩に感謝を伝えませんか。靈的指導者の忠告や指摘に対して、どのような態度を持つべきでしょうか。

〈教え・模範〉50~52節:私たちの生涯に許された時間と、働き領域には限りがあります。モーセの働きはここまででした。また、彼は完璧ではなく、失敗があったことも記されていますが、イスラエルをエジプトからここまで導く使命を、最善を尽くして果たし、いよいよ天の家に向かったのです。

<適用の祈り>ただ一度、限られた地上での人生です。どのような生涯を送りたいでしょうか。自分に与えられた使命に対して、最善を尽くす生き方でしょうか。それとも、自分の楽しみのための生き方でしょうか。最高の人生の最後を迎えるために、今日決断できることはないでしょうか。

NOTE

参考(51) 民20:10~12。

4月27日(木) 神さまからの祝福の言葉を伝えよう 申33:1~17

●内容観察

モーセは自らの死の前に、民を祝福しました。十二部族それぞれに対する預言の言葉を語り、これから入る相続地の祝福が語られます。ここでは最初にルベン、ユダ、レビ、ベニヤミン、ヨセフに対する祝福が記されています。

●静聴と観察

【御父】5節:私たちの王であるお方です。主は民のかしらが集まった時、イスラエルの王とされました。王はその国の支配者ですが、イスラエルの国の王は、主ご自身でした。今、イエスさまを信じた私たちも、神ご自身が王として立てられる神の国に生きているのです。

<適用の祈り>今、あなたの王は誰でしょうか。自分自身が王になっていますか。また、世の価値観や常識が王となっていますか。恐れをもたらすサタンの声が王となっていないでしょうか。恐れや不安、罪の葛藤や誘惑から自由にしていただくために、主を心の王座にお迎えしませんか。

〈模範〉1~4節:クリスチャンは神の民として、神の教えを伝え、人々を祝福する祭司の権威が与えられています。モーセは死の前にして、イスラエルの子らを祝福しました。モーセは神の教えを

4月28日(金) 自分に与えられた祝福 申33:18~29

●内容観察

イスラエル十二部族の中でゼブルン、イッサカル、ガド、ダン、ナフタリ、アシェル部族についての祝福が記されています。最後にモーセは、神に選ばれたイスラエルの民が幸いな民であることを話します。

●静聴と適用

【御父】18~19節:私たち一人一人に、異なる賜物と役割を与えられたお方です。ゼブルン部族には外に出ていく祝福が、イッサカル部族は天幕に留まる祝福が語られています。神さまは、皆を個性をもって造られ、それぞれ異なる役割と賜物を、祝福として与えられたのです。

<適用の祈り>誰かと自分を比べるばかりで、自分自身が誰で、何をすべきかを忘れてはいませんか。神さまがあなたに与えてくださった祝福(賜物

と役割)は何でしょうか。

【御父】20, 26~27節:私たちの地境を広げ、苦難から救い出し、敵を追い払われるお方です。神さまはガド部族の土地を広げ、アシェル部族を敵の侵略から守り、匿ってくださることが記されています。

民に伝え続け、それによって民の信仰を導き、支えたのです。

<適用の祈り>私たちは自分の口を用いて、祈りの中で語られた神さまからのメッセージや励まし、みことばを周りの人に伝えることができます。最近、周りの人を祝福したことはありますか。示されたみことばや神さまの愛、励ましなどを、手紙やメールなどで伝え、信仰を励まし合いませんか。

〈励まし〉6~17節:それぞれに異なった祝福が用意されています。モーセは神さまに示されるまま、部族ごとに祝福を語りました。それぞれ祝福の内容は異なっていますが、祝福されない民は一つもありませんでした。

<適用の祈り>人と自分を比べて落ち込んだり、劣等感を感じたりしていませんか。神さまは私たち一人ひとりに、異なった賜物や祝福、個性を与えられています。人と比較せず、自分だけが神さまから与えられているものに目を留めませんか。どのようにそれを用いることができるでしょうか。

NOTE

トンミムとウリム(8) 大祭司が神さまのみこころを判断するために用いた石のこと(出28:30)。

<適用の祈り>神さまと共に歩んでいるなら、あなたの地境が広がることは、神の国が広がることです。新しく広がっていくように示されている領域はないでしょうか。居心地がよい場所に留まり続けていませんか。たとえ周りの環境や生まれつきの難しさがあるとしても、神さまはどのようにしてくださるお方でしょうか(参/1歴4:9~10)。

〈励まし〉28~29節:「幸いなイスラエルよ」とあります。神さまを知り、救われた人ほど幸せな人が、この世に他にいるだろうかと記されています。全知全能であり、私たちを愛して守ってくださる神さまを知っていることは、どれほどの祝福でしょうか。私たちは、この世で一番幸せな者なのです。「イスラエル」に自分の名前を入れ替えて宣言しませんか。

<適用の祈り>お金や成功など、偽りの幸福を追いかけたり、疎外感を感じたりしてはいませんか。救いの喜びを思い起こし、過去の自分はどうかあったか、今、与えられている恵みは何かを数えませんか。